

2022年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ

調査対象：568名（2022年度9月卒業生26名、2022年度3月卒業生542名）

調査実施期間：2022年9月1日～9月30日、2023年3月3日～3月31日

回答者数：463名（2022年度9月16名、2022年度3月447名）

回答率：81.5%

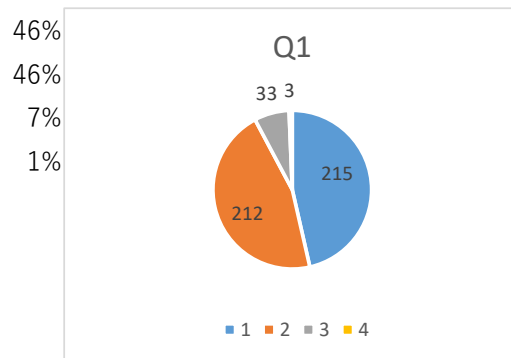
以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

●学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

1. 満足	215
2. どちらかといえば満足	212
3. どちらかといえば不満	33
4. 不満	3

計 463

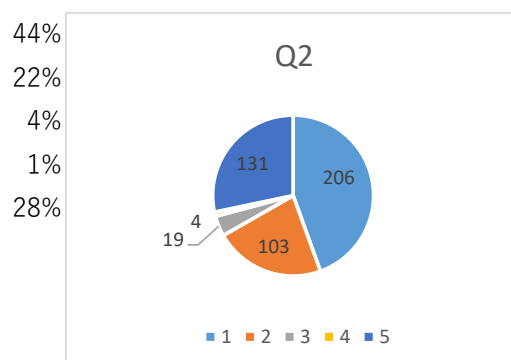


Q2

●ゼミ

1. 満足	206
2. どちらかといえば満足	103
3. どちらかといえば不満	19
4. 不満	4
5. 未所属	131

計 463

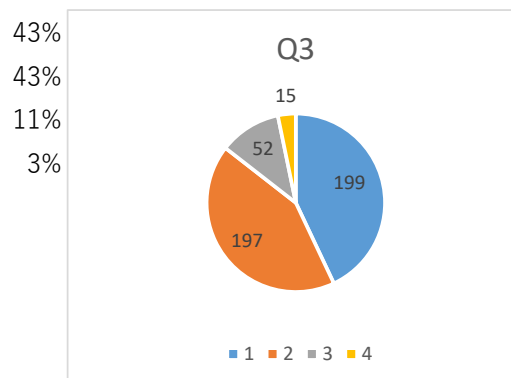


Q3

●就職活動支援

1. 満足	199
2. どちらかといえば満足	197
3. どちらかといえば不満	52
4. 不満	15

計 463



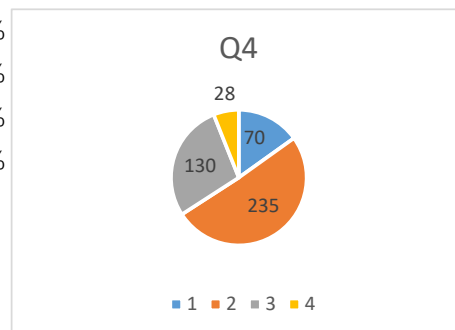
Q4

次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

●教養と外国語について

1. かなり身についた	70
2. ある程度身についた	235
3. あまり身につかなかった	130
4. 全く身につかなかった	28
計	463

15%
51%
28%
6%

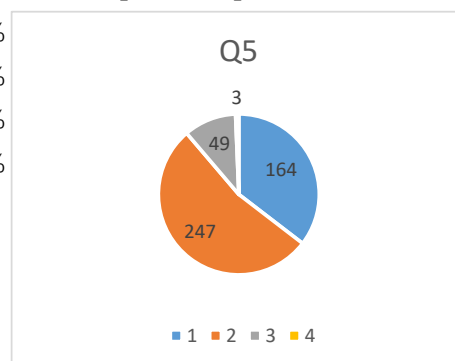


Q5

●経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

1. かなり身についた	164
2. ある程度身についた	247
3. あまり身につかなかった	49
4. 全く身につかなかった	3
計	463

35%
53%
11%
1%

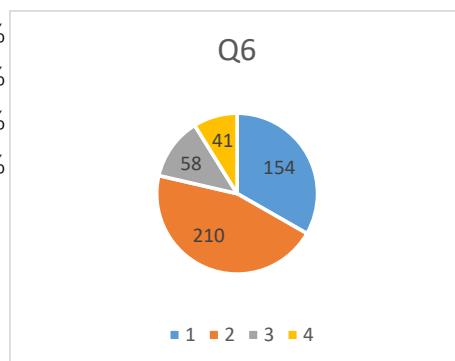


Q6

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	154
2. ある程度身についた	210
3. あまり身につかなかった	58
4. 全く身につかなかった。	41
計	463

33%
45%
13%
9%



【2022 年度 経営学部卒業生アンケート結果からの分析】

2022 年度の経営学部卒業生アンケート結果について、その概要と概括的な分析を試みたい。

1. 調査概要

まず、調査概要は以下の通りである。

調査対象：568 名（2022 年度 9 月卒業生 26 名、2022 年度 3 月卒業生 542 名）

調査実施期間：2022 年 9 月 1 日～9 月 30 日、2023 年 3 月 3 日～3 月 31 日

回答者数：463 名（2022 年度 9 月 16 名、2022 年度 3 月 447 名）

回答率：81.5%

2. 分析結果

（1）入学後の総合的な満足度

「入学後の総合的な満足度」として、「学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q 1）」、「ゼミ（Q 2）」、「就職活動支援（Q 3）」の各質問項目についての調査結果をみてみたい。

（2）学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q 1）

当該項目では、「満足」が 46%（2021 年度 46%：以下同様）、「どちらかといえば満足」が 46%（46%）、「どちらかといえば不満」が 7%（6%）、「不満」が 1%（2%）という結果となった。92%（92%）が「満足」「どちらかといえば満足」という肯定的評価であり、昨年度同様に当該項目での満足度は高いといえる。

（3）ゼミ（Q 2）

当該項目では、「満足」が 44%（48%）、「どちらかといえば満足」が 22%（23%）、「どちらかといえば不満」が 4%（4%）、「不満」が 1%（2%）、「未所属」が 28%（23%）という結果となった。

ゼミ教育については、回答者の 28%がゼミ未所属であり、ゼミ所属学生に限定したとき、「満足」は 62%（62%）、「どちらかといえば満足」が 31%（29%）となり、ゼミ所属生は総じて満足して卒業したと考えられる。

未所属学生が 4 年次だけゼミ未所属なのか、2 年次から卒業までゼミ未所属なのかが不明であるが、2021 年度の結果（ゼミ未所属 23%）から 5%増加している。今後、ゼミ未所属者を減らしていく取り組みが検討事項としてあげられよう。

（4）就職活動支援（Q 3）

当該項目では、「満足」が 43%（44%）、「どちらかといえば満足」が 43%（41%）、「どちらかといえば不満」が 11%（12%）、「不満」が 3%（3%）という結果となり、86%（85%）が肯定的評価であった。ただし、「どちらかといえば不満」「不満」という否定的評価が 14%

(15%) 存在している事には注視が必要であろう。

(5) 大学入学時と比較した知識・能力習得状況

次に、「教養と外国語 (Q 4)」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 (Q 5)」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 (Q 6)」において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果をみてみたい。

(6) 教養と外国語 (Q 4)

当該項目では、「かなり身についた」が 15%(16%)、「ある程度身についた」が 51%(51%)、「あまり身につかなかった」が 28%(28%)、「全く身につかなかった」が 6%(5%) という結果になった。否定的評価が 30%を超えていることもあり、さらなる取り組みが必要であると考えられる。

(7) 経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目] (Q 5)

当該項目では、「かなり身についた」が 35%(31%)、「ある程度身についた」が 53%(60%)、「あまり身につかなかった」が 11%(8%)、「全く身につかなかった」が 1%(1%) という結果になった。肯定的評価の割合が 88%(91%) であり、十分な成果が得られたと考えられる。

(8) 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ] (Q 6)

当該項目では、「かなり身についた」が 33%(28%)、「ある程度身についた」が 45%(51%)、「あまり身につかなかった」が 13%(13%)、「全く身につかなかった」が 9%(8%) という結果になった。肯定的評価の割合が 78%(79%) となり、ゼミなどによりある程度の成果が見られたと考えられる。

3. 総括

上記のように、2022 年度の卒業生の満足度及び達成度に関する卒業時の意識としては、総じて高い評価が得られているといえる。今後の課題としては、教養と外国語に対する到達度をあげることや就職活動支援の傾向を注視すること、それ以外でも高評価に満足することなく、高評価を維持しつつも、さらなる向上に努力を傾注していくことが肝要であろう。